

活動に至った理由・背景

3.11に起きた未曾有の大震災は、生きる意味を根本的に問い、コミュニティのあり方を深く考えさせられるものとなりました。空港・鉄道・高速道路などの交通インフラの整備が遅れ、雇用の場が少ないとことから過疎、少子・高齢化が急激に進む四万十市において、当団体は、かねてより集落コミュニティの維持活動に従事してきました。大学や専門学校が当地域に無いこともあり、高校生から40代の「若手層が少ないとことによる集落の活力維持」に限界を感じ、現状を打破するためには、より広範囲に若手層がつながり、集落・地域やテーマを持ったコミュニティの支援活動が不可欠だと考え、模索してきました。

上記の現状を踏まえ、活動エリアや運営メンバーの広域展開を検討している最中、3.11の大震災が起きました。本県が発祥である「よさこい踊り」を基軸に集落の敬老会や保育園行事、地区祭礼等に訪問していた当団体では、宮城県仙台市で開催される「みちのくYOSAKOIまつり」が、有事により開催の見送りを検討していることを知り、少しでもバックアップしたい意向から、メンバーを高知県内外から募り、初参加を決めました。メンバーは青年団員・大学生・高校生・公民館長・市町村職員・県職員など有志50名が集まり、そのうち40名が宮城県を訪問しました(公務外)。

宮城県を訪問した際、本取り組みの協力者である濱田竜也氏のコーディネーターにより、氏が震災を機に交流のあった宮城県地域復興支援課と高知県メンバーとの意見交換会、宮城県名取市職員・名取市閑上保育所所長(3.11当時)のガイドによる名取市閑上地区の被災地訪問、仮設住宅訪問を実施し(2011年10月)、具体的な交流の継続方法について活発な意見交換が行われました。さらに、より具体的な交流の仕組みを模索するため、メンバーの大学生とコーディネーター濱田竜也氏が再度名取市を訪問。宮城県庁職員、宮城県市町村職員、名取ボランティアセンター所長(3.11当時)、名取市閑上漁協職員、名取市閑上地区NPO、大学(名取市)、現地住民等と折衝し、本プロジェクト立ち上げへと至りました。

設立年月 1946年12月

メンバー数 30名

代表者名 大崎 博士(おおさき ひろし)

〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎222-1

TEL.090-5914-4351/FAX.0880-52-1137

Nigiwai40010@gmail.com

団体のミッション

私たちは、宮城県名取市閑上地区に漁業復興のための漁具倉庫を届ける活動を通じて、高知県内の青年組織の活性化と、ネットワークづくりを行ない、過疎高齢化が進む集落維持に取り組んでいます。

プロジェクト Ship for ship

西土佐連合青年団「高知県四万十市、宮城県名取市」



踊つて、復興。

3月～9月

漁具倉庫建設資金集め

↓県内各地のイベント出店

1棟あたり約100万円の建設費用がかかるのですが、資金捻出の大半を県内大学生・青年団に掛け、県内各地のイベントに出かけ物品の販売を行いました。イベントは、売上げだけを目的としたものではなく、「イカダくだり競争」など地域イベントに参加することでメンバー同士のコミュニケーションを活性化させ、よさこい踊りの披露を通じて現地の方に地域を訪れる自分の達を知つて頂き、夜の懇親会などで地域の方と交流しやすいプログラムにしました。また、青年団OBの方を中心現地の方に講師となつて頂き、「過去の活動の紹介」「自分たちの活動についての発表」を通じて、先輩・地域の方との価値観の共有・意見の交換を行い、「楽しみながら高知県を知つて仲間づくりと東北復興を行なう」プログラムにしました。

約40万円の売上げとなり、建設資金の半分弱を捻出しました。

6月・9月 名取市視察訪問

「設計案や建設場所」「資材調達、スタッフ宿泊場所、当日お手伝いの手配」など、現地での意見交換を通じて、建設計画のイメージを膨らました。

6月・9月 名取市視察訪問

「設計案や建設場所」「資材調達、スタッフ宿泊場所、当日お手伝いの手配」など、現地での意見交換を通じて、建設計画のイメージを膨らました。

6月・9月 名取市視察訪問

「設計案や建設場所」「資材調達、スタッフ宿泊場所、当日お手伝いの手配」など、現地での意見交換を通じて、建設計画のイメージを膨らました。

すと共に、詳細を詰めて行きました。
物理的な距離（車で片道約18時間）もあり、メール等でやりとりすれば良い場面もあったかも知れませんが、直接足を運ぶことで、自分たちと「名取市・漁協・商工会青年部・尚絅学院大学」など名取市の方との連帯・一体感が生まれたように思います。

6月29日(金) 海の語り部

小斎誠進さんに、県西部宿毛市・四万十市でお話し頂きました。宿毛市は防災担当の方をはじめ、平日の夕方にも関わらず市役所の職員約30名の方にお集まり頂きました。

宿毛市は丁度、南海大地震に備えて小学校の合築について議論されている最中ということもあって、活発な質疑応答がされました。夜は県西部幡多地域の若者が集う「情熱交流会（大崎主催）」が行われており、この場でもお話し頂きました。

6月30日(土)
「ship for ship」
立ち上げレセプション

漁具倉庫建築が決まり、物販イベントが行われ、活動が形になってき始めた6月30日(土)に正式なプロジェクトを立上げ、レセプションを高知市で開催しました。これまでの取組みと今後の計画について話をし、プロジェクトへの賛同者を増やしたいとの思いと、もうひとつ踏み込んだ「いっしょに動く仲間探し」を主な目



東北

8月10日(金)～11日(土)
よさこい祭り参加

的に開催しました。当日は名取市から震災発生後から詳細にカメラに収められた小斎誠進さんをゲストに招き、「その時」の様子や、発生から現在までの名取市の様子をお話し頂き、報道だけでは伝わらないありのままの名取市を感じることが出来ました。

ワンコイン鳴子募金(500円)
《メッセージ鳴子(募金活動)》

当日は名取市のマスコットキャラクターに見える形の募金を」と言うことで取組み始めました。よさこい踊りの際使う「鳴子」に募金(500円)して頂いた方にメッセージを頂き、みのくYOSAKOIで訪れた際、現地の方に直接お渡しました。

物販を行うイベント会場での呼掛けだけでなく、家族や友人など個人でも呼掛けを行い、多くの寄付を頂きました。頂いた鳴子は1個ずつの配布と、七夕飾風に仕立てたものの二種でお配りしました。

メッセージ鳴子は、仮設住宅へ訪問した際に手渡しました。その際、現地の方が一緒に鳴子を持ってよさこい踊りを楽しみました。

よさこい祭りは自分たちにとって「仲間づくり・リーダー育成の場」「地域交流きっかけの手段」として活用したのですが、戦後から始まる祭りは今年で60回、全国の約200箇所で開催されるなど、「活動を広く知つてもらう為」に有効な手段となりました。JR高知駅前で販売を行い、観光客などは現地飛び入り形式にして、多くの方に呼掛け・巻き込むスタイルの確立を目指しました。

9月23日(日)～25日(火)
漁具倉庫建設

余談ですが、今年の活動は雨と言うか荒天にことごとくたたられました。地域イベントのいくつかは「ここ」しか降らない状況だったり、よさこい祭りでは雷、直前イベントでは台風といったように、天気との闘いでした。漁具倉庫建設は9月23・24・25日で行ったのですが、最

初の2日間、晴天が予想された中、雨と風が吹きつけとも作業できる状況ではありませんでした。ただ、高

知から来ていることで、良くも悪くも腹をくつて作業を行いました。大工さんをはじめ高

知から5名、現地の尚絅学院大学のみなさん8名、名取市役所復興支援課のみなさん6名で進みました。人が必要な時には大勢、大工さんしかできな

い時間帯は少人数といつた具合に効率よく作業は進みました。

また、初めてで不慣れな学生同士ではありました。一体感が生まれ交流が進みました。宿泊場所は尚絅学院大学の施設に布団を手配して頂きました。これだけでもありがたかったです。歓迎会も開いて頂き、漁具倉庫を通じた若者同士の交流が進んだことは大変良かったと思います。将来的には全国の青年団や大学生がこのプロジェクトに参加し、交流すればなんと楽しいことだろうか?と妄想が膨らみました。

また、初めてで不慣れな学生同士ではありました。一体感が生まれ交流が進みました。宿泊場所は尚絅学院大学の施設に布団を手配して頂きました。これだけでもありがたかったです。歓迎会も開いて頂き、漁具倉庫を通じた若者同士の交流が進んだことは大変良かったと思います。将来的には全国の青年団や大学生がこのプロジェクトに参加し、交流すればなんと楽しいことだろうか?と妄想が膨らみました。

10月6日(土)～7日(日) みちのくYOSAKOI参加

昨年のみちのくYOSAKOI祭り以来2回目の参加。高知から片道約18時間のバスの旅だったのですが、現地合流組を含めて約40名で参加。両日とも日中は名取市を訪問、2日目はよさこい祭りに参加するスケジュール。初日は名取市主催の「漁具倉庫完成セレモニー」に参加。よさこい祭りに参加頂いたカーナくんに今回は高知のご当地キャラ「カツオ人間」が参加し、にぎわいに花を添えました。また、旬のカツオのタタキとカツオ餃子をふるまい、緊張感の中にも和やかな雰囲気を作り出しました。

2日目は美田園仮設住宅を訪問。正直に言つてどのように接していくのか不安が大きかったです。が、みなさんに温かく迎え入れて頂き、高知から持参した「メッセージ鳴子」をお配りしました。お配りするとどなたも「教えて」と、予想以上の反応で、会場は踊りの講習会となりました。また、スタッフがバスにメッセージ鳴子を取りに3往復するなど、大いに盛り上りました。

よさこい祭りは純粹に自分たちが「楽しい」のですが、その「楽しい」を共有することができます。「もっと楽ししく、また、メンバーの充実感が違いました。このみちのくプロジェクトだけでなく、自分たちが今まで取り組んで来た普段の活動の中でもこの仮設住宅での1時間が一番印象的な時間となりました。

成果

成果としては2つ。「東北の復興への寄与」と、防災に備えた「市町村の域を超えた広域的な青年活動の活性化」でした。1つ目は漁具倉庫完成という成果に加え、活動の過程で地域の人を繋げるといいう「ヨソモノ」の役割からの貢献。2つ目は団体メンバーが中心となり四十市青年団が20年ぶりに復活、地域イベントへ大学生を定期的に送り込み、学生と地域のコーディネートの役割が確立されてきましたなどがあります。

今後の予定

●定期的な活動

「街頭募金と県内各地でのプレゼン」

東日本大震災を風化させない様に、毎月「11日」前後の週末に街頭募金を行う予定です。また、県内各地の青年団に、このプロジェクトの賛同者、いっしょに動いてくれるメンバー探しを主目的に、各地でプレゼン・意見交換する場を作る準備を進めています(月1回予定)。

●活動を継続的に行う為に

「若者の主体性」を「東北復興」や「集落維持」へ活用。この活動を継続的に行えるような組織・事務局体制を強化します。



○現地事務局の立ち上げ

建築資材だけでなく、実施主体を徐々に名取市に移して行こうと考えており、3月までに現地で受け皿が出来ないだろうかと関係団体のみなさんと協議する予定。長期休みを利用して高知の学生スタッフが名取に1週間程度滞在し、少しづつ主体を名取市に移す動きを取つて行きたいと考えています。このプロジェクトを通じて全国の学生・青年団とのネットワークを作り、田舎暮らしのインターンシップなど、自分たちの住む高知県の集落維持に活かせないか?妄想中です。

【2013年度スケジュール】

6月29～30日 閑上訪問し現地ヒアリング

↓今後の活動計画の意見交換
↓大学生との交流・閑上訪問・仮設住宅訪問

(よさこい祭りに向けた取組の提案を行い、いつしょに祭りに参加する仕組みを作ります)

8月10～11日 第60回よさこい祭り参加

(東北大学生・閑上関係者と共に参加予定) ↓祭り前後で「学生・出雲漁協委員長」に県内各地でシンポジウム「海の語り部」開催

9月 東北復興支援団体チーム香川と共同で講演会「海の語り部」開催
(講師：閑上地区出身写真家小齋誠進氏) 漁具倉庫2棟目建設予定

10月12～13日
第17回みちのくYOSAKOIまつり参加

(仮設住宅訪問・閑上漁港訪問)